

- 一 (一) 光景
- (二) 上演
- (三) 充足

(4) 翻弄
(5) 偉人

文脈から切断された言葉が多義性
という命を失うこと。

金銭欲にとらわれた者がその充足
を存在理由として追求すること。

科学的合理性に基づいて行き先が
見通し可能とされるなかでは、人
間は自らの存在理由をもつて生き
ることでできないということがある。

自然の合理性による支配から自律
し、偶然を必然と受けとめつつ言
葉で「歴史」をつくりながら、そ
れを運命として、自らの存在理由
の達成をかけた未知に打ちあか
う。人の公として生きていくこと。

- 二 (一) ためらいながら
おそろおそろ
- (2) ひきだすきっかけ

(3) 労苦をいたわること

他人からの過度な嫌悪が唐突に現れ
たこと。

卑屈さを感じさせまいとする施す
側の好意が、施される側の屈辱感
をかえって大きくすると、うジレ
ンマに陥り、落胆したから。

施す者に対する反感を自然な嫉妬
として肯定し、その好意を受け入
れて生きていく、欲しいから。

相手への気遣いをもつて施しを受
け入れるだけのプライドを鍛えて
も解消されない、自分たちの現状
か同情に値するものを持たれるこ
に無意識に抵抗する気持ち。

三

(一) (1) たいそうほなほだしい

(2) 効き目がなくむなしいこと

(二) その人こそが将門の君でいらっしやいます。
見間違いなさったのですか。

(三)

七	体	の	将	門	の	う	ら	本	体	の	み	か	影	が	あ
り	・	黄	金	の	身	の	う	ら	本	体	の	み	か	影	が
み	肉	身	だ	と	い	う	こ	と	こ	ら	こ	め	か	み	の
の	身	だ	と	い	う	こ	と	こ	ら	こ	め	か	み	の	あ

(四)

影	が	あ	る	将	門	本	体	の	こ	め	か	み	を	目
に	し	・	自	分	の	技	量	な	ら	射	損	い	な	い
距	離	だ	と	思	つ	た	か	ら	。					

(五)

将	門	の	死	を	確	認	し	た	こ	と	で	一	将	門
が	都	に	攻	め	入	子	と	い	う	こ	と	が	虚	言
だ	と	知	り	一	不	守	と	恐	怖	か	ら	解	放	す
れ	た	か	ら	。										

四

(一) (1) 世話をしづらい

(2) 理由を聞き

(二) これによりてこれをいえ(へ)ば

(三)

蘭	と	茶	は	清	い	と	い	う	点	で	相	性	が	よ
い	と	い	う	こ	と	。								

(四)

臭腐 : 穢 (悪臭漂う汚穢)

神奇 : 蘭 (蘭の芳しい香)

(五)

筆者が頑固で聞きかじった蘭の栽培法にこだわり過ぎていっているということ。

(六)

蘭	に	茶	を	か	け	て	も	上	手	く	育	て	ら	れ
ず	・	客	か	ら	草	木	に	は	糞	が	必	要	だ	と
言	わ	れ	た	こ	と	に	も	納	得	で	き	ず	に	い
た	か	・	蘭	の	性	質	の	変	化	に	配	慮	し	て
糞	を	か	け	る	の	が	大	事	だ	と	悟	っ	た	。